

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日: 2024年 2月 28日

事業所名: こどもデイ青空

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	○			フロアの使い方が分かりやすいよう絨毯の色や材質を変え、学習や食事の場所と運動や遊びの場所に分けた	100%					今後も子どもたちが楽しく安全に活動出来るよう適切なスペースの確保に努める。
	2 職員の適切な配置	○			法定の人数を配置するとともに、子ども達の実態に合わせ安全に配慮した配置を行っている。	100%					今後も安全な事業所運営に向けた職員配置に努めていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	○			視覚的支援や合理的配慮の観点を用いた掲示物や環境整備に努めている。	100%					さらに子ども達の主体性を育てるような環境整備に努めていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	○			日々清潔を意識した環境作りや子どもたちが活動に集中し、全力で楽しむための環境設定に配慮している。	89%			11%		環境衛生などの面でも事業所の取り組みを、保護者の方へ発信していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	○			毎日のミーティングと振り返りに力を入れており、日々変化していく子どもたちに適切な支援が行えるよう職員全員で取り組んでいる。						
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			○							今後の課題として、外部評価についても検討していきたい。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	○			毎月(長期休業を除く)1回以上の研修会を行っている。						今後も継続して支援の質の向上を目指した研修会を実施していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	○			年2回のモニタリングと日々の送迎時に保護者の方とお話をさせて頂き、ニーズや課題を明確にし、支援計画に反映させている。	100%					これまで以上に子どもの実態に即した計画になるよう努めていく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	○			それぞれの子どもへの課題に対する具体的な支援を保護者と共有、意見交換を行ない、決定、記載している。	100%					より具体的で、実際の支援の際の指標となるような支援計画を目指す。
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	○			それぞれの実態に合わせた支援計画を作成し、日々の変化にもスタッフ全員が対応出来るよう努めている。						これまで同様、個別、集団を織り交ぜた支援計画の作成に努める。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
適切な支援の提供 (続き)	4	○			支援計画に沿った活動内容、支援方法に努めている。	89%			11%		今後も支援計画に沿った適切な支援の実施に努めていく。	
	5	○			毎月の活動予定を作成し、目的や支援方法などを明確にしたうえで支援に臨んでいる。						今後もスタッフ全員で活動プログラムの立案を行い、子ども達の充実した事業所利用を目指す。	
	6	○			子ども達の成長を鑑みながら、毎日ミーティングを行っている。同じ活動内容でもねらいや手法を変えるなどして、プログラムの固定化を防いでいる。	89%			11%		今後もこれまで同様、ミーティングや振り返りの時間を十分に活用しながら、バリエーション豊かな活動計画を行なっていく。	
	7	○			それぞれの利用形態に合わせて、活動内容や場所を変更している。また、課題に対するねらいも活動できる時間や場所によって日々変化させている。						これまで同様きめ細やかな支援に努めていく。	
	8	○			毎日のミーティングを大切にし、きめ細やかで安全な支援が行えるよう努めている。						今後もスタッフ間での連携を大切に、子ども達のより良い療育に向けて努めていく。	
	9	○			毎日振り返りを行い、その日の支援についての反省と次回の取り組みについて話している。また、メール等を使って、休暇職員にも周知している。						これまで通り、密な連携と情報の共有に努めていく。	
	10	○			日々支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施						日々の記録をしっかりと残していき、振り返りや今後の支援に役立てていく。	
	11	○			定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し						これまでと同様の時期、方法で実施していく。	
	関係機関との連携	1	○			必要に応じてサービス担当者会議に参加している。						今後も必要に応じてサービス担当者会議を立案、実施していく。
		2				(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施						

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標			
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ		わからない	保護者の方のご意見	
関係機関との連携（続き）	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備											
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	○			担当者会議や電話、実際に事業所や学校へ出向くなどの方法で情報の共有を行い、円滑な移行支援を行っている。						今後も他事業所、学校等との連携を取り、円滑な移行支援が行われるよう努めていく。	
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	○			他事業所とも密に電話連絡をしながら情報共有を行っている。						これまで同様、様々な方法を用いて、他事業所との連携を図り、円滑な移行支援を行なう。	
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	○			専門機関との連携、専門機関の方にリモートで参加していただくの研修を実施している。						今後も専門機関等との連携を図り、様々な形での研修を実施していく。	
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	○			休日等に児童館を利用したり、地域の公園に外出したりした際に、地域の子どもたちと一緒にボール遊びなどを一緒に楽しむ機会を作っている。	89%			11%		保護者の方の回答で「わからない」という回答があったため、今後はもっと詳しく活動内容を報告出来るよう努める。	
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営			○	現在は感染症等の影響で実施できていないが、今後は地域の方々へも呼びかけたイベントを行なっていきたいと考えている。						今後の検討事項として全事業所で話し合いを行う。	
	保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	○			契約や定期的なモニタリングの際に、丁寧な説明を行っている。	100%					今後も同様に丁寧な説明に努める。
		2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	○			支援計画作成後、保護者への説明を行ったうえで、支援計画に了承の印を頂いている。	100%					各更新毎に、丁寧な支援計画の説明を行っている。
3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施		○			保護者の方の困りごとや対応について、本所で行っている方法や声掛け等をお伝えし、家庭でも取り組める方法などをお話している。	89%	11%				保護者の方との連携を密に取り、その中でご家庭での困りごと等に対して寄り添ったお話しが出来るよう努めていく。	

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	○			日々の送迎時に、新たに出来たことや楽しめたことなどをお伝えし、発達状況や課題について共有している。	100%					保護者の方との連携を密に取り、利用者の発達状況や課題を常に明確にして支援に臨めるよう努める。
	5	○			本所での対応の仕方やこれまでの経験などから保護者の方の悩み事について、お話をさせて頂くことがある。	100%					保護者の方からの子育てに関する悩み事に対して、適切にお話ができるよう努めていく。
	6			○	現在は感染症等の影響で実施できていない。今後の開催に向けて検討中である。	22%	33%		33%		今後開催出来るよう話し合いを進めていく。
	7	○			スタッフ、管理者、執務員、代表取締役と順を追って対応体制を整備している。苦情があった場合には、メールの一斉送信等で、迅速に係の全員が把握出来るようになっている。	89%			11%		これまで同様に、苦情に関して、適切かつ迅速に対応していく。
	8	○			直接のお話、電話、メール、配布プリントなどその場、その人に合った方法での意思の疎通、情報伝達を行なっている。	89%			11%		視覚支援、IC機器の活用など、工夫して意思の疎通が図れるよう努めていく。
	9	○			毎日の活動内容の報告、月に一度の行事予定プリントの配布等で、子ども達、保護者の方への情報を発信している。	75%	11%		11%		これまで同様、活動内容や連絡事項などの発行を続け、より充実した物を目指していく。
10	○			個人情報の取扱いに関しては、低位的にミーティングで取り上げ、適切に対応出来るよう努めている。	75%			25%		今後も個人情報の取り扱いには全スタッフで確認等を行ないながら適切に取り組んでいく。	
非常時等の対応	1	○			口頭、プリント配布等の方法で、感染症への対応や緊急時の対応についての周知を行なっている。今後も同様に周知の徹底を行なっていく。	89%			11%		保護者からの「わからない」という回答を受け、連絡ノートや口頭、配布プリント等で、お知らせを行なっていく。
	2	○			年最低3回以上、災害時対応の避難訓練を行なっている。	89%			11%		今後も定期的な訓練を続けていくとともに、更に必要であると考えられる訓練についても追加して実施をしていきたいと考えている。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標				
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点			はい		どちらとも いえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見
非常時等の 対応（続き）	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	○			外部講師を招いての研修会や、虐待防止委員会開催後に全スタッフへの周知を行うなど、定期的に研修の機会を設けている。	/	/	/	/	/		今後も定期的に委員会を開催し、その都度全スタッフに周知し、虐待防止への意識向上を図る。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・理解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	○			身体拘束に対するスタッフの意識の向上のための研修を行ない、やむを得ず実施する場合は、保護者から同意書を貰い、その子への実施内容や方法の研修、話し合いを行ってから実施する。	/	/	/	/	/		今後も身体拘束に対する同意書、支援計画への記載を徹底する。また、身体拘束ゼロを目指した支援力向上に努める。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	○			食物アレルギーについては必ず医師の指示書を頂くようにしている。それをもとに、スタッフ全員で対応を検討、実施している。	/	/	/	/	/		これまで同様、食物アレルギーに対して最善の注意を払い、ご家庭、医療等との連携を密に取っていく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	○			ヒヤリハット事項を記入し、保管するとともに、メールにて全職員へ周知出来るような体制を整えている。	/	/	/	/	/		事故防止の観点から、ヒヤリハット事例の洗い出し、周知の徹底を行い、事故なく安心して楽しい事業所作りに努める。